

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 30 年度病虫害発生予察速報第3号について

このことについて、病虫害発生予察速報第3号(ハスモンヨトウ)を発表したので送付します。
9月2半旬のほ場における幼虫の発生虫数は、8月下旬の防除が行われていない生育良好な大豆を中心に、多発しているほ場が散見されます。
今後、9月中旬にかけて生育が遅れ気味の大豆への被害が多くなる恐れがあるので、幼虫の発生状況の確認と、適切な防除指導をお願いします。
また、野菜についても今後発生が増加する恐れがあるので、合わせて注意喚起を徹底願います。

速報 第3号

1 対象作物:大豆(および野菜類)

2 病虫害名:ハスモンヨトウ

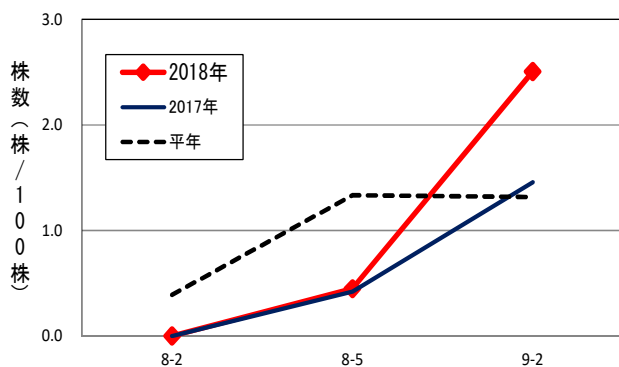
3 発生地域:県下全域

4 速報の根拠

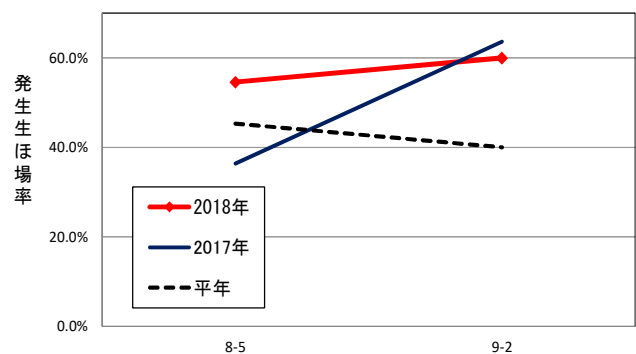
ア 9月2半旬調査の結果、白変葉数は平年・前年よりやや多かった(図1)。

100株当たりの白変葉株数:2.5株(平年1.3株、前年1.5株)

発生ほ場率:60.0%(平年40.0%、前年63.6%)



白変葉発生株数の推移



白変葉発生ほ場率の推移

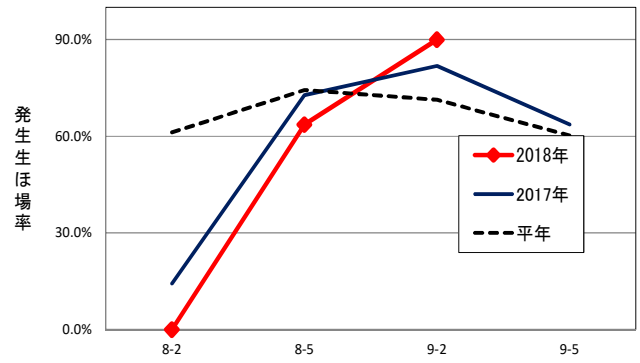
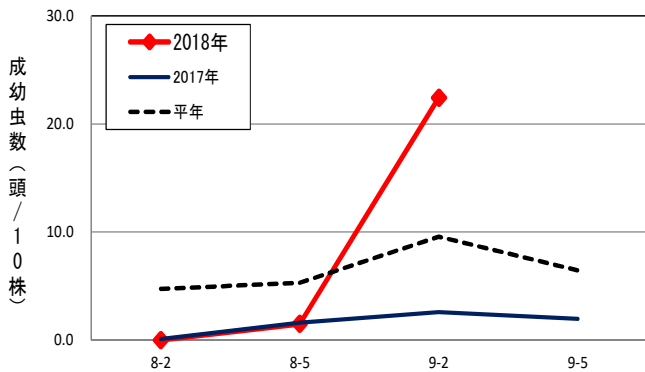
図1 大豆における白変葉の発生状況

イ 9月2半旬調査の結果、幼虫の発生量は平年・前年より多かった(図2)

10株当たり幼虫数:22.4頭(平年9.6頭、前年2.0頭)

発生ほ場率:90.0%(平年71.3%、前年63.6%)

* 齢期構成:若齢 45.4%、中齢 33.9%、老齢 20.7%



ハスモンヨトウ幼虫の密度推移

ハスモンヨトウ幼虫の発生ほ場率の推移

図2 大豆における幼虫の発生状況

ウ 県下3ヶ所のフェロモントラップで、8月4～5半旬の成虫誘殺数に小さなピークが認められた(表1)。

表1 フェロモントラップでの成虫誘殺数

月-旬	誘殺数(頭)		
	筑後	筑紫野	行橋
8月			
1	102	55	220
2	25	49	109
3	22	61	94
4	73	87	128
5	71	87	123
6	17	-	-

5 防除上注意すべき事項

ア 大豆での幼虫数はほ場毎の差が大きい、平均すると9月2半旬の10株当たり平均幼虫数は、多発生した2016年、2011年、2007年と同程度と考えられる(表2)。

また、生育が遅れている大豆での幼虫の発生量は、生育良好な大豆より少ない傾向が見られる。

イ 若齢幼虫が群生している白変葉は、見つけ次第除去するとともに、薬剤防除を実施する。

ウ 幼虫の齢期が進むと薬剤による防除効果が低下する。現在、若～中齢幼虫が主体のため、発生が多いほ場では早急に薬剤防除を実施する。

エ 葉の食害による減収量が多い時期は開花期前後である。生育が遅れている大豆は開花も遅れているので、今後の発生状況には十分注意する。

また、イチゴ苗等の野菜でも発生が急増する恐れがあるので、合わせて留意する。

表2 過去10年程度の幼虫発生数(黄帯は発生が多かった年次)

項目		10株当たり幼虫数		
		8-5	9-2	9-5
年次		頭	頭	頭
2018	平成30年	1.5	22.4	-
2017	平成29年	1.6	2.6	2.0
2016	平成28年	4.1	7.7	4.0
2015	平成27年	0.9	2.1	0.6
2014	平成26年	0.1	0.3	0.6
2013	平成25年	3.2	4.0	17.5
2012	平成24年	0.5	4.6	9.9
2011	平成23年	18.5	10.1	5.7
2010	平成22年	4.2	10.9	9.1
2009	平成21年	1.6	6.5	12.8
2008	平成20年	12.6	4.3	33.5
2007	平成19年	3.3	36.4	53.8

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

